

三重大学 人文学部

法律経済学科

## 「協同組合論」

特殊  
講義



松井 寿人／三重県中小企業団体中央会事務局長

### 中小企業と協同組合

第10回（12月12日）：受講46名（受講生41名・聴講&スタッフ5名）

中小企業が抱える近年の課題は人手不足と事業の承継問題である。中小企業組合は、農林水産業以外の事業者の協同組合であり相互扶助の精神に基づき協同して様々な経済事業等をおこなっている。三重県中小企業団体中央会には499組合等が加入しており、中小企業組合の設立・運営支援等を主な事業としている。中小企業の連携で「みえの元気」を育てていくことが大切である。

#### 【講義の主なポイント】

- ・ 中小企業は、資本金と従業員数で（業種によって異なるが）大企業と区別されている。労働者の内、約70%が中小企業で働いている。また、統計の取り方にもよるが、中小企業はおよそ全国で350万社にまで減少している。
- ・ 中小企業にとって以前は、競争の厳しさやコストダウンの要求に応えることが課題であったが、近年では人手不足と事業の承継問題が課題となっている。
- ・ 中小企業組合は、農林水産業以外の事業者のための協同組合であり中小企業が集まって一定の存在となっている。例えば、トラック事業協同組合や建設業協同組合、地域別組合、異業種で組織された協同組合等もある。
- ・ 中小企業組合は全国に約37,000の組合があり県内には540の組合がある。
- ・ 日本の中小企業組合の歴史は、奈良・平安時代に始まった「座」に起源し、鎌倉・室町時代には「株仲間」、江戸時代の「楽市楽座」「無尽」などがある。1900年に産業組合法ができ、現在の中小企業組合の基礎ができた。
- ・ 中小企業組合の種類は、それぞれ目的ごとに事業協同組合、信用協同組合、企業組合、協業組合、商工組合、商店街振興組合がある。
- ・ 個々の組合員では所有できない機械や設備を組合が導入し組合員に供給する共同生産・加工事業や、組合員が必要とする資材や商品等を組合がまとめて購入する共同購買事業など様々な共同事業をおこなっている。また最近では外国人技能実習生共同受入事業を目的とした新規組合の設立が増えている。
- ・ 三重県中小企業団体中央会の会員数は499組合等（加入率85%）である。中小企業の連携で「みえの元気」を育てることがミッションであり、中小企業組合の設立・運営支援、中小企業振興のため国や県等に対し建議や陳情等もおこなっている。

## 第10回講義…受講生の感想レポート（一部抜粋）

### Aさん（3年生）

協同組合の組合員は人だけでなく企業もあるのだなと感じました。中小企業は地域の支え手であり、大企業とは違った良さを抱えています。しかし、その企業規模は小さく、様々な理由から倒産に結びつきやすいです。そういった中小企業を支えるための協同は、とても意味のあることだと感じました。

事業の内容を聞いて、設備の補助や共同購買のような事業を行っていることに驚きました。信用組合が金銭面で企業の援助をしているなら、中小企業組合は事業面での援助をしているのだと感じました。

正直、最初は中小企業と協同組合って全くの別物感があったので、中小企業組合というネーミングに違和感を感じました。

しかし、実際に話を聞いて、中小企業にとっても協同組合はなくてはならない存在だと思いました。

### Bさん（4年生）

近身における中小企業の企てる課題の最も深刻なものは、

人手不足だと語られていましたが、これは協同の力を、むしろも解決が難しいものだと思います。

日本経済の大部分を担っているのが中小企業である以上、

その人材確保は非常に重要な急務といえると思うので、

中小企業組合におかれども、人材養成事業や、外国人技能実習生の受入事業について、力を入れてほしいと思いますし、実際力を入れておられると思います。

しかし、最近、ニュースでも、技能実習生のブラックな実態について、よく報道されているので、クリーンな人材確保に、特に力を入れてほしいなと感じます。

### Cさん（2年生）

大企業に対して、資金調達の難し、生産性の低さや人材不足など、中小企業は抱える問題が多い。中小企業組合は、それらの問題を解決、サポートをする役割を果たしている。

今までの組合の活動が直接的であったのに対し、中小企業組合はどちらかというと、間接的であると感じた。また、間接的であることに加え、中小企業組合において種類や目的別の組合が存在していることにより、企業のもつ問題や不足しているポイントにより細かく対応でき良いと思った。

## Dさん(2年生)

中小企業組合では、地域経済の要である中小企業(組合員)を支えるがたちで、地域も支えているのだと思いました。今までは直接高齢の組合員のサポートをする活動等を行って地域の重要な役割を担う組合などのお話を聞かせていただいたのですが、中小企業組合は中小企業が経営しやすいような支援や、相互扶助により近代化、合理化を図る等、あくまで組合員を支える役割を担い、中小企業の活動を通して地域につながっているのだなと感じました。

地方の中小企業ではより小規模な企業も多く、個々の企業では出来ないような設備などを、組合で行うことにより、個々の負担も少なくなったり、効率化が進められることは、協同組合ならではの利点だと思いました。また三重県の具体的な協同組合を例にあげて事業内容について説明してくださったので、理解しやすかったです。組合を指導したり、設立を支援する三重県中央会の存在を初めて知り、こうした団体が、全体的に事業を行うことにより、もと中小企業である組合員が働きやすくなるのだと思います。

## Eさん(3年生)

中小企業の弱さ(人手不足、資金不足、規模の小ささ)をカバーするために、企業が集合し互いに協力することが必要とされるのが分かりました。こういった理屈は他の協同組合と共通していますが、組合員が事業者である性質から、同視できない難しさもあるのかなと感じました。共通の産業や伝統文化に関する企業同士の間には、材料調達や文化振興を協同して行うことで両者にメリットがありますが、同時に「競争相手」という関係性であるため、今までの組合員とはまた違った関係性なのかなと思います。

協同組合は単なる資金調達にとどまらず、研究開発、情報提供、常務管理、人材育成、さらには福利厚生事業など、中小企業の存続に非常に重要な部分まで支えていることに驚きました。協同組合の重要性を感じるとともに、中小企業の置かれる環境の厳しさを知りました。中小企業の数は多くとも、1つ1つの声は小さくて届かないことあるのかと実感しました。中小企業の抱える困難さを社会全体に認識してもらい、国からの補助など、状況改善につながれば良いなと思いました。

### Fさん(2年生)

中小企業が抱える問題を協同のか、相互扶助で克服していくという  
ことはとても理想的だと感じました。ライバル関係とされる同業者と  
対立、競争するだけでなく、協力することで、お互いが共通して  
抱えている課題を解決していく、その組合全体で経営を合理化  
することで中小企業としての弱さを克服していくというところに  
魅力を感じました。

中小企業が他の企業に負けたくないこと、中小企業にしかできないこと  
という点も組合の存在が初めて成り立っているという点も、むしろ  
フォーカスが当てられ、存在が知られるべきだと感じました。

### Gさん(2年生)

日本の企業の99.9%が「中小企業」ということで、確かに産業の重要な  
担い手となり、その地域の活性化においても中小企業次第で  
あると感じました。大企業はAIや最新機器の発展など、新しい  
ものをいかに早く取り入れられるかというところに力を入れていると  
感じます。だからこそ、その一方で中小企業組合が伝統産業や、伝統文化  
を後世に伝えるというのはいくらも重要な役割であると感じました。  
また、その地域の社会的サービスの提供者として、介護、生涯教育、  
まちおこしなど大企業ではなかなか行うことができない取り組みが  
できるという点も、中小企業組合ならではの点だと感じました。

中小企業の抱える課題として、規模の過小性や生産性の低下、人手不足など  
どのようにも中小企業組合がカバーしていかないと今後の日本に於ける

中小企業のあり方が変わっていくと感じました。

### Hさん(3年生)

中小企業の現状は、売上や利益があるところでも、後継者不足で、引き継がれないところも  
存在している。私たちの間でも分かる企業は、大企業に分類されるのが約99.8%は中小企業  
から成り立っている。しかし、従業員数の減少や、資金調達が難しいなど中小企業は、  
不利なこともある。1社では難しくても集まって、大きくすることができることは、むしろ増える。  
組合が銀行からお金を借入、それを個人企業に貸し出しをすることができるなどの例もある。  
競争があるからこそ相互扶助が行われており、組合の大切さを感じました。協業組合の  
三重にも10社くらいあることがわかりました。